

はじめに

RMC事務局では、2014年10月31日、トラックとオートバイのコミュニケーションをテーマにした座談会を企画した。ベテランのバイク乗りにしてトラックの運転手である染谷運輸の社長、染谷敏夫さんに参加をお願いし、RMCのキャンペーンの発案者であるモータージャーナリストの山田純さん、RMC代表の藤田眞吾をまじえての楽しい座談会が実現した。座談会場所は染谷運輸の休憩室をお借りすることができた。ありがとうございました。

経験豊富な三人の鼎談は、トラックとオートバイの相互理解がいかに不可欠なのか、路上の意思疎通はどうおこなわれるべきであるかなどの課題をめぐって、実に傾聴に値する内容となった。それもこれも、トラックとバイクの深い経験にもとづく染谷さんのお話のお蔭である。染谷さん、ありがとうございました。

以下に掲げるのは、座談会の音声テープにもとづいて作成した記録です。なるべくオリジナルの内容を尊重しつつも、ボディランゲージを考慮し補正している箇所があること、文意にならない箇所を削除してあること、不穏当な発言を改変してあることなど、さまざまな編集作業を施しておりますので、音声テープそのものの記録ではないことをご承知おきください。

*



笹田：染谷さん、山田さん、藤田さん、今日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。特に染谷さんには、この月末の業務の忙しいところ、時間を割いていただきまして本当に感謝しております。あの、ま、1時間半ぐらいの予定で、あの、進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。で、まず最初に、あの、染谷さんから、あの、いろいろ自己紹介していただきたいん

ですが、まずご出身からちょっと。

染谷：えー、えー。

笹田：ご出身はどちらですか。

染谷：栃木とね、茨城、千葉のちょうど境目、利根川沿いです。

笹田：あ、そうですか。

染谷：うん、県境、うん。

笹田：私も古河に住んでたことあるんですけど。

染谷：あ、古河。あー、茨城の境町なんですよ。

笹田：あ、じゃあ隣町だ。

染谷：うん。

笹田：うーん。

染谷：だから、あそこはほら、あの、うーん、何て言うの、利根川と江戸川のこう、うん、分かれ目だね。

笹田：渡良瀬用水地と。

染谷：うん。えー、渡良瀬と、うん。

笹田：いいところですよ。

染谷：だから、あの、向こうに整備工場とか、あの、運送の基地やなんかはあるんだけど。

笹田：あ、向こうがむしろそういうのの本拠地ですね。

染谷：うん、もう、こっち置けなくなってね、向こうへ置いたり。

笹田：あー、なるほど、じゃあもともと運送会社を始められたのはこちらで始められて。

染谷：うん、ここで始めたから、だからこんな掘っ立て小屋で。

笹田：いやいや。

染谷：で、他はね、いかにも工場とかそんな、ま、近代的な、全部あるけど、ここはもう本当のももとの発祥地だから、周りがね、マンションで苦情来てるけど。

笹田：あ、そうなんですか、あら。

染谷：うん。

笹田：へー。

染谷：夜中運行の車が多いからね。

笹田：あー、なるほどね。

染谷：そんな関係で、ま、あの、うん。

笹田：住民の方も、あとから来てるわけですが、気になるんでしょう。

染谷：そう。

山田：昔は、何にもなかったからね。

染谷：うん、そう、田んぼの真ん中だから。

山田：そうですね。

染谷：うん。

笹田：そうすると、染谷さんがいらっしゃったのは、昭和何年ぐらいですか。

染谷：うんと、34年で。

笹田：昭和 34 年ですか。

染谷：うん。

笹田：あー、そうですか。

染谷：ま、実家が、あの、建設、木材関係なもんだったから。

笹田：そうですか。

染谷：うん。それで、えー、東京へ、ほら、木場の木材の仕入れにね。

笹田：あ、なるほどね。

染谷：自分がこっち来てたもんだから。

笹田：うーん、なるほど、なるほど。そうすると、あの、その頃からもうバイクには乗っておられたんですか。

染谷：そうね。おやじがね、あの、やっぱし田舎でもバイクのあれで。おやじのバイクをいたずらしたりなんかしてね。

山田：え、どんなバイクですか。

染谷：中学の時代から。

笹田：へー、バイクは何ですか、そのときは。

染谷：そのときはね、あの、おやじは、あの、なんだ、キャブトンとかアサヒ、うん。で、あんな、あの頃は 500CC ぐらいだったものが大きく感じてね。

笹田：あー、でしょうね。

染谷：で、ま、ちっちゃいのもあったから、あの、50CC の、うーん、ほら。

山田：あー、飛行機のやつ。

染谷：うん、飛行機と両方の。うん、あれいたずらしたりね。その頃からだったもんだから。

笹田：そうですね。それで今は、現在は、あの、BMW の K1600、GTL。

染谷：うん、はい。



笹田：それから GL1800。

染谷：え、GL の 1800 と。うん。

笹田：あとは、もう 1 台ぐらいありますか。

染谷：あとは、ま、あの、クラウザ。

笹田：あ、クラウザで。

染谷：うん。ドマーニみたいな。

笹田：あ、前、乗ってこられましたよね。

染谷：うん。

笹田：あのアイアンホース（註：福田モーター商会に集うツーリングチーム）のツーリングでね。そうでしたよね。じゃあトラックの方はどのぐらいもう運転手をされているんでしょうか。

染谷：トラックはね、ま、あの、うち建設、ま、材木だったから、あの、うん、オート三輪から始まって、ま、あれがだからオート三輪で、16 で免許取れて、それからずっと、まー免許つたつたね、あの当時だから、あの、学校の庭へ石灰で。

笹田：線引いて。

染谷：線引いて、クランク行って入るでしょう、はい合格ってやつ。

笹田：すごい合格ですね。

山田：それって何年ぐらいですか、昭和。

染谷：うんと、あの 33 年か。うん。16 から取れたからね。

笹田：あ、じゃあ先にバイクを取って、それからトラックっていう順番ですかね。

染谷：うん。一番最初は、あの原付の第一種ってやつ。あの、何にもない、申請すれば、うん、14 歳から取れたから。

笹田：あ、試験とかなくて。

染谷：うん。それ取って第二種にして。で、えー、あと、あの、バイクの免許っていうと、軽二輪ってやつ。

で、あと自動二輪は難しくって、ほら、500 だのが取れなかったから。

笹田：あ、そう。

染谷：それは取ってないのよ。

笹田：あ、そう。

染谷：で、いきなり三輪車よ、自動三輪ってやつ、仕事に使うやつね。

笹田：へー、なるほど。うん。

染谷：だから。自動二輪なんていうのは、ま、あの、おまけで付いてきたようなもん。

笹田：四輪の免許で付いてきたわけや。

藤田：ポツダム免許、ポツダム免許や。

笹田：ポツダム免許ですね。じゃあ、あの、後でまたいろいろ話詳しく伺いたいと思いますけど、じゃあ、次に山田純さんの方から。

山田：はい。

笹田：もう自己紹介をお願いする必要ないんですけど、一応、RMC のこともあのちょっと語っていただきな

がら。

山田：そうですね。あの一、ま、その僕の略歴とかい
ろんなものは、ま、あの、適当に書いといていただ
ければいいですが、僕がそのルール&マナーアップで、
バイクとトラックをうまくこうコミュニケーションで
できればいいなと思ったのはですね、バイクに乗って
る側から見ると、トラックは鉄の塊で、で、運転手の、
あの、顔も見えないじゃないですか。で、あまりにで
かいから、バイクから見ると怖い。で、実際はその恐
い運転をしてないんだけど、怖いっていうのがある。
逆に、トラックさんから見るとバイクっていうのはウ
ロウロちっちゃいのが、こう走ってって、あの、やっ
ぱり何となく嫌じゃないですか。

で、そういう中で、実際に僕らがワインディングを
こうツーリングしたりするときに、あの、一番先に、
あの、道譲ってくれるのがトラックさんなんですよ。
あ、トラックさんの方がすごい親切だなんていうこと
で、僕らはいつも手挙げてあいさつしながら追いつ
かせていただいたりしてるんですけども、あ、これだ
ったら、その、バイクとトラックがそういうそのうま
くコミュニケーション取れていけたら、その一、事故の
撲滅にもつながっていくんじゃないかなっていうのが
最初の発想だったんですね。で、トラック乗ってる方
って、あの、バイク好きな方も結構多いですよ。
染谷：うん。そりゃそうだね。多い、うん、うん。
山田：だからそういう中で、やっぱりいらっしゃいま
すよね。社長そうだし。で、そういう中で、その、あ
の、バイクのこともある程度分かってくれてる人も多
いんじゃないかなと。だから、その、えー、ま、そう
いう例えば染谷さんところのトラック見かけたら、例
えば追いつくときに手挙げていこうとかねいうのでコ
ミュニケーション取ってければいいんじゃないかなっ
てのが発端です。

だから、ぜひ、あの、そういうので、そういう、あ
の、何でしょうね、個々のライダーとこのトラックの
ドライバーさんと、何らかのそういうその意思の疎通
ができるようになっていけば、あの、混合交通の中
でもだいぶ変わってくるんじゃないかなと思ってるん
です。

染谷：うん。

山田：ま、そういう考えです。

笹田：そうですね。あの、染谷さんは、あの山田純さ
んのライダートレーニングも大磯でやってた時代に受
けてらっしゃるんですよ。

染谷：うん。何回か。

笹田：体験されている。

染谷：うん。うん。ああでもないこうでもない、なん

だ、その止まり方は！なんて（笑い）。ね。あの、で、
ま、発進でもそう。あ、やっぱし、うん、そういう、
あの免許取るときはね、うん、そういう、ま、基本
的なことをやってる。

でも普段、何となくもう、うんと、走り出すような、
あ、こと、準備運動も何もしない、もういきなりまた
がって空気圧もみない、オイルの点検もやんない。で、
ウインカーも、おー、何にもね、チェックしない。ま、
大丈夫だろうで、だろう運転になっちゃうからね。あ、
やっぱし、そうやって止まる、うーん、走る、うーん、
曲がる、その辺の右左の安全確認とかね、あ、そう
だよってっていうのが、それが基本で、ま、あとは、ま、
状況に応じてもう走る、それが基本じゃねえかなと。
うん。

で、あの、よく箱根とか行くとね、これやったりす
る。あー、ああいうこともやる人がいるけど、あれは
まねしちゃいけないと、だからまねすんだら、ちゃ
んとした、あの、レース場とかね、競技場行ってやれ
ばいいことだし、一般道路で、えー、ね、俺は何キロ
出したとかああいうのはほんとちょっとね。

笹田：それにしても、結構飛ばされていると思います
けど。

染谷：いや、今、年だからね、もうほんと、うん。

笹田：そうですね。今おいくつでしたですか。

染谷：もう 73 だよ。

笹田：あ、そうでしたか。はー。じゃあ、あの、藤田
さん自己紹介よろしくをお願いします。

藤田：僕と一番近いですね。僕は 67 ですけども、も
う僕はバイク歴はね、えー、僕も長いんですよ。もう
53 年になります。で、さっきおっしゃった原付の免許、
あれ許可に僕 1 年特生まれで年足らなかつたんですよ。

染谷：うんうん。

藤田：えー、ほんとで 1 年ほど無断で乗ってましたけど、
あの、軽四、軽。

笹田：一応、録ってますから（笑）。

藤田：いや、軽四、軽四輪を取ったんですね。

染谷：あー、うん。

藤田：あのときはコニーって日産の軽四のコニーって
いうのがあった。試験場行きますとね、えー、スバル
の 360。

染谷：うん、300、あの、60 ってやつがね。

藤田：カメってやつね。あれで取ったんですけど、ギ
アが入らなくてね。で、いつの間にか二輪がついてき
たという、先ほどのポツダム免許ですよ。頼みもせ
んののに大型になってるっていう中で、もう長いですね。
もう 53 年乗ってきましたね。で、ま、純さんともも
うだいぶ最初の方からいろいろ懇意にさせていただいて、

で、その中で何年たってからかな、ルール&マナーアップちょっと。

山田：そうですね。

藤田：もうちょっとちゃんとした乗り方をしようという話になりましたね。

山田：5~6年たってからですかね。

藤田：ぐらいでしたかね。

山田：うん。

藤田：ほいで、ま、某上層部も、あの、これはこの分野は取られそうやということで、えー、かなり反対はあったんですけどね。いや、やっぱり、あの、ルール&マナーアップはね。で、僕の一番懇意にしとったタケダっていう友達が、あの、目の前で飛び出してきた車を避けて、それで自分からガードレール当たって、中央分離帯の、ほいでもうほとんど即死やったんですけど、それを、ま、目の当たりにしてますから、やはりその先ほど言われたような、ちょっと気を使うような乗り方で行かないと。



で、ま、その、普通の乗用車でもそういう形になりますから、ましてやその大きいトラックっていうのは、やはり、その一。まあ、僕らも逆に気を使って追い抜いていくんですけど、で、どうしても、あの、渋滞すると、あの、間を入ったり、その横から前出たりするとき、ま、それはもうしょうがないと思うんですけども、その信号、長い信号待ちしてるときは、前出るんですね。みな無線積んでますから。で、そのときにでもちょっと前へスッと入って黙って行くんじゃないかと、ちょっとこう頭を下げて会釈するか合図をするかということをやるとね、やはりドライバーさんもやっぱり気持ちいいと思うんですよ。

染谷：うん、そうだよな。

藤田：で、ま、その辺をちょっと、ま、あの、やかましく言われて、こうしようあしようっていう1つのマニュアルも作ってますね。ほんでルール&マナーア

ップを主体に、えー、動いてて、ま、周りの者が皆集まってきてくれて、やろうやろうっていうメンバーが増えてきて、ほんで本格的には去年の6月に飛騨の高山で、あの、声掛けしたんですよ。

染谷：うん。

藤田：で、僕は、ま、だいたいBMOJの役員、本会場で国内を僕担当してたもんですから、北海道から九州まで一応声掛けしたらですね。あの一、36名か集まってくれましてね、えー、四国は熊本からも秋田からも実費で飛行機で名古屋まで来て、で、バス乗って集まってくれて、で、ま、去年に6月に発足させたんですけども。今100人ちょっと超えたメンバーさんで、あの、かつてないクラブでは味わえない、あの、どう言うんですかね。

本当のこの本当の仲間ばっかりのコアな連中が、あの集まってきてくれて、いろんな意見の中であししよう、こうしようちゅうことでやってるもんですから、あの、ライダーの同士のコミュニケーションもですけども、そのちょっと、あの、二輪以外の四輪に対して、ちょっと気配りのある走りできないかと。

だから、あの、ま、高速で追い抜くときもですね。ま、普通こうやって手挙げる、ウインカーだけで行く場合もあるんですけど。あの、僕、あの、高速道路走ってね、一番その感心したのは、トラックでもなく乗用車でもなくバスなんですね。

染谷：うん、バス、うんうん。

藤田：小型一種の持ってるバスはね。追い越し車線で、その、この車を抜いた途端に左のウインカー入るぞってウインカーつけて、だいたい数えたら10回ぐらいつけた状態から今度ゆっくり入ってくるんですよ。ほいで完全に入るまではウインカーを消さない。それで入りきったところで、あの、ウインカーを止めてるんですね。

だから抜かれてもね、あの、ムカッとこないんですよ。きれいに抜いてくれますから、気持ちがいい。で、これは、ま、僕今もこれはもう自分であの実行してるんですけど、で、トラックの人には手を挙げるの普通こう挙げるんですけど、もうこう、これぐらいで挙げて、あの、ちょっとあいさつする形で入って行って、ま、みんながだんだんまねするようになってきてるんで、あの、やはり気持ちいいですよな。

染谷：そう、だから自分もね、バイク乗ってるときはね、よく頭で挨拶を。

藤田：うん、えー、はい、頭。

染谷：で、頭ね、下げても、うんうん、同じ、あのバイク仲間はね、そんなの運転手は分かるわけねえだろうと。そんな、いや、運転手っていうのはね、ちゃん

と動きを見てる人と見てねえ人いるから、その動きを見てる人はね、もう、あ、バイク来たな、そしたらもうちょっと邪魔になんないようにすり抜けていけるように、どっちか寄る。

笹田：そうですね。

染谷：うん。

山田：：いつもすごいそれがあの感謝してます。そういうトラックさんね、結構多いですよ。

藤田：トラックさんが一番結構多いですね。

染谷：そういうの、うん。

藤田：ちょっと空けてくれる人がね。うん。

染谷：で、特にうちはほら、トレーラーばっかしだし。



藤田：あー、余計ですね。

染谷：それをね、ただ、あの、トラック、の、ま、あの、運転手、ま、自分も前は乗ってたからね、ま、バイク乗ってるからだけど、もう絶えず右左見てる。で、よく今はあの3車線でもトラックが一番左側よと。で、えー、最高速度がリミッターついて90キロしか出ないから、左側。で、ま、中には乗用車だって、ね、70キロ、80キロで走ってる。あ、ま、いろんなマークつけたのが。

山田：うん、うん。

染谷：いるから、どうしても、うん、第二通行帯入る。そうするとね、ま、遠くからでも俺らはもう乗ってても、うちの運転手も言うけど、バイク編隊で来るよと。それがありがたいが、あの、うーん、第一通行帯、第二通行帯、第三の間、混んでるときはね、間どっちか。

ところが、もう渋滞始まるとね、ああ、向こうから来たなっていうの、ありがたいが運転手が左のバックミラー見て、えー、右は、ま、自分で目視できる範囲内、だから左側気を付けてる。そうすると、左側、ま、バイク、真ん中ライトついてるから確認もできる。そこ走ってくるからちょっと寄ってやる、そうすると今度はその編隊の中で同じクラブの、うーん、マークか何

か付けた連中が両方から来る。どっちよけていいんだって、こんなやつらって。

山田：それはなりますね。

染谷：そういうね、あの、運転手からののが危なくてしようがないよと。

山田：いや、絶対それありますね。だから逆に僕はそういうことをしないで、もしすり抜けしなきゃいけない場合はどっちかに決めて、で、あの、ま、行かしていただくと。で、行ったら手挙げてあげるっていうようなことをもっとちゃんとしていこうっていうのが、僕らの主旨なんですよね。で、運転手は必ず見てますもんね。ね。で、ちゃんとかういうよけてくれたりしますからね。

笹田：そうですね。だから、あの、先導者が右から抜くと、後ろの後続車は全部右から抜けなさいと。あの、ある人は右から、2番手は左から抜くとかいうのはもうやめとこうということで。

僕はそういう決まりも一応マニュアルとして作って行こうと、あの、話はしてるんです。

染谷：うーん。それ、両方からね、やられるとほんとに。

藤田：まー、危ないですからね。やっぱり。

染谷：だからうちももう、なんかこういう標語やポスターなんかを休憩室の壁に、全部貼ったりなんかして。



笹田：えー、えー、先ほど見てるんですけど、こういうのはいいですよ。

染谷：バイクやなんか来たら気を付けろよって。



笹田：これすごいですよね、これも。やっぱりバイク乗っておられるから、それが分かるんですよね。

染谷：うん。で、たまにね、そうやって、ま、特にその高速道路の上やなんかでもね、あの、トラックだって全然どっつか幅あんのによけもしない、それで、えー、自分たちが渋滞の中でもね、ダーッとみんな空いてなのに、それがためにバイクがズラッと並んで、それでもだからよけてやればいいのかになと思っただけで平気な運転手、トレーラーもトラックも、ま、乗用車もバスもそういう運転の仕方の、うーん、運転手が多いからね。

藤田：ま、あの、徐々にね、やはりちょっと浸透していつて分かってもらえたら。それとまあドライバーさんとバイク乗りが似てるのは一人ということなんです。あの団体で走っててもバイクは一人じゃないですか。

染谷：うん。

藤田：で、ドライバーさんも一人じゃないですか。結構その共通点あるんですよね。あの、孤独な中で移動してるという、あの、共通点がある。僕らはもう 100 パー遊びですから、こっちは 100 パー仕事で乗っておられるんで、ま、その、ま、違いはありますけども。でもやっぱりこう狭い道ですから、いかにどれだけこの意思の疎通を、ま、ちょっと意識し合って、このゆったりこう走れるね。将来に向けてちょっと 1 つずつやっていこうかっていうことで、ま、始めたんで、ま、丸 1 年ちょっとたって、純さんとはもう何年も前からやろうってことで、あの、ここにおる主だったもんも何人かは一緒にこうやってるんですけどね。やっぱり僕ね、一番やって良かったと思うのは、九州、僕結構フェリー、九州はフェリー乗って大阪から行くんですけど。新門司から、僕、あの、泉大津なんです。

染谷：あー、泉大津だと、もう、あれやね。

藤田：えー、で、年に数回ですけども。

染谷：南港からの、うん。

藤田：乗りますとね。だいたいそのトラックさん、運転手さんがその同じフェリーを使って、あの、同じ時間、第 1 便、第 2 便ってあったら、早便で乗られるのが多いんで、だいたいあの皆さん、僕の方のバイクを覚えてくれてるんですよ。ほいで、あの、バイクのキャップ着てご飯食べとったら、ロビーでトラックの運転手が前から一人来て、乗とったんです。で、あの、バイク乗とった兄ちゃんになるんですよ。おっさんつかまえてもお兄ちゃんになるんですけどね。

ほんで、ま、「バイク乗ってたやろう」っていうから、「あの黄色のあれ、自分のやろう」っていうから、「あ、俺のですわ」って言って、「いや、前も会うたよ」って言ってね、そっから話し込んだら、そのあのトラックの運転手の仲間が、10 人ぐらいいっぺんに増えて占拠して、で、飲み会始まって、でもトラックのドライバーさんはね、某僕らとは違って、時間でパンともうはよう飲むのやめますね。量も適度で。ほいでほとんど最近飲まない人が多いんですけども、あの、ま、缶ビール 1 本ぐらい。ほいでこうワワワ話ししてね、すごい楽しい時間で、で、最後今度は大阪で降りるときに、トラックは先降りるんですね。

染谷：うん。先に出るからね。うん。

藤田：ほいで、バイクが後やないですか。で、もうこの煙の中な、はよ出したらええのになって思いながら、で、降りてずーっと、あの、今度、幹線道路へ向いて行きますとね、トラックがおるんですよ。で、1 台、こうあいさつしたら、向こうはクラクション鳴らしてくれたんですよ。パーッと。そしたらズーッと 10 台なん、10 台ぐらい抜いていくんですよ、ずーっとゆっくりです。みんなね、クラクション鳴らしてくれるんですよ、パーッとね、連動で。ほんで、僕手挙げたまま。あれはね、もうすごい感動しましたね。うん。

あの、もう全然トラックを見る目が変わりますね。だからすごい楽しいし、で、フェリーに乗っても、運転手さんが一人で飯食とったらって、もうすぐ横行って、あの、話ししてもね、もう打ち解けるんですよ。そしたら、たまにあーあのときにおった人がおられたりね。だいたい同じ便にみな乗られるんですよ。

染谷：うん。だいたいね。そうそう。

藤田：決まってるんですよ。だからね、ああやっぱりやっとなってよかったなっていうのを実感しましたですね。うん。すごい皆さん、楽しい人ばかりで。

山田：うん。もちろん、そのね、トラックさんの中でも、あの、そういうのは嫌だっていう人もいるかもしれないけど、でも、逆に例えば僕らがその染谷さんと

ころのトラックだったらもう分かっちゃうわけじゃないですか。

染谷：うん。

山田：あ、染谷さんとこだっていったら、手挙げれば問題なくね。

藤田：そうそう、染谷運輸ね。

山田：で、あの、ドライバーさんが1発フォーンと鳴らしてくれると、あ、意思疎通できたねっていう感じになるんじゃないかなと。

藤田：やっぱりすごい楽しいですよ。うん。知らんところでこう、全く知らんね、ドライバーさんと会うと。で、平気でそういうのに遭遇すると、僕らでもサービスエリアで、あの、停まるどころなかったらトラックの横へちょっと停めさせてもらいますよ。そしてこのヘルメット見て運転手さんが中にご飯食べたりお茶飲んだりしてたら、ま、あいさつしますよね。ほいで「こんにちわ」って言うたら、もうザーッと向こうからしゃべってくれるんですよ。「どこ行くの」とかね。で、ヘルメット脱ぐまでは兄ちゃんなんですよ。

染谷：確かにそうやね。ま、そういうのがほんと。

藤田：脱いだ途端ね、俺のおやじみたいやなって、そう思われるんでね。そこはあの良かったと思ってますけどね、やり始めて。

染谷：フェリーはね、うちもう、あの、毎日、あの、東京、新門司、オーシャン東九フェリーね。

藤田：あー、はいはいはい。

染谷：うん、あれでほら契約で全部乗ってるから。

藤田：あー、新門司入るわけですね。

染谷：うん。新門司と。

藤田：あー、そうですか。

染谷：あとは、ま、博多んどこ行くのとね。

藤田：そうですか。

染谷：それであのオーシャン東九フェリーのバイク、好きな連中が、ま、何人か集まってね。で、あの一、毎月1回この辺やったら1泊したりもやってんです。

山田：あ、そうなんですか。

染谷：うん。

山田：へー。

藤田：いいですね、それ。

染谷：だからフェリーの連中はね、ま、遠く行ったりなんかしてるから、道はよく知ってるしね。

山田：なるほど、なるほど。今度なんかそういうツアーをね。

藤田：ツーリングを。

山田：トラックの人たちとクラブと一緒にこうなんか。

藤田：今度、染谷さんとこの、あの、ちょっと沖縄の方向かれる便あれば。

山田：沖縄ですか。

藤田：トラックの後ろにあのツアーのバイク乗せていただいて。

染谷：あ、沖縄はね、え、もう年中、今日も何台かうちのトラックで、あの、沖縄の発電所、今日乗船かな。

藤田：絶えず満車ですか。ちょっと空くときってあったら。ちょっとクラブで1台いくらか払うてね、いったら楽しいかも分かんんですけどね。うん。

山田：なるほど。でもあれですね。そういうのでこうトラックさん、皆さんもフェリーの人たち、バイクの人たちがいるっていうことでいくと、やはり感じ方はたぶん一緒ですもんね。ね、だから逆にそういうのでこううまくこうコミュニケーション取れるような、あの、ことをやっていければいいなと思いますね。ぜひ、それは。

藤田：いいですよ。だってこれまだ世界でやってないでしょう。日本がしょっぱなぐらいじゃないんですか。

山田：うん。他ではどこでもやってないです。

藤田：トラックのドライバーさんと交流を深めていこうっていう動きは、おそらく日本が初めてだと思うんですよ。われわれやり始めたのが。すごくええと思うんですけどね。訴えていったら、今度ね。

山田：その辺はもっともっとアピールをしていって、そうすることで、そのね、最終的にはどこのトラック、ドライバーともこう意思が疎通できるようにしたいわけで、だから最初は少しずつでもいいんで、例えば、染谷さんところのトラックと、ねえ、遭遇したりすれ違ったりしたらあいさつしましょうというところからいければいいと思う。

藤田：去年に、あの、新宿の日本トラック、全日本トラック協会の広報の方に、あの、出向いているんですよ、僕とあのササヤンと2人でね。

染谷：あ、そうなんですか。

藤田：で、すごくね、あの一、どう言うんですかね。賛同していただいて、で、今度、まあ、純さんちょっと気があれば会ってもらって、ちょっとコラムを、あの、運送のあのトラック協会の新聞あるやないですか。

染谷：ああ、ある。

藤田：全国にも出してる。あこにちょっと、ま、載せようかっていうことも言うていただいたんですけどもね。

染谷：あ、そうなの。

藤田：はい。

染谷：え、えー、トラック協会ね、の、ま、あの、東京のトラック協会の本部と、甲信越の、あの、重量部会、その自分、委員やってるのよ、本部の。

藤田：あの、大阪の、あの、トラック協会もこの前、万博で僕行ってきたんですよ、会長に、あの、1年ごしにあいさつと、それから専務のあの一ナガノさんとまた1年ぶりに再会しましてね。あの、やっていますんでってごあいさつしてきたんですよ。ま、広報の方が、やっぱりそこでも広報の方が出てこられて、本部の、で、もういやこれやりましようっていうことで、かなり賛同いただいてね。はい。あの、新宿も行ってきましたんで、また近々1年ごしに行つて。

染谷：うん。新宿も今度新しくね、あの、会館ができたからね。

藤田：あ、そうですか。前のビルではないんですか。

染谷：えっと、前のビルと、その向かい側行くと。

笹田：一等地ですよ。

染谷：うん。

藤田：え、すげえとこにありますよね。うん。行ってきました。だから、ま、今後も、な、そういう動きをね、ちょっとお願いしながら、ま、取りあえずは純さんね、やっぱりまずトラックさんと、やっぱりこうちょっと仲良くして交流深めて、やっぱり事故、もうトラックって当たったらアウトですからね、バイクはもうどうしても。

染谷：うん。

藤田：もう跡形もなく。

染谷：本当。うん。

山田：だから、ま、あの、こういうその僕らの活動に賛同していただけて、ね、あの、そういうあいさつし合いましようっていうことで、あの、許可をいただければ、もうそこからどんどん発展していくと思うんで。まずは染谷さんここで。

藤田：染谷さん、バイク乗ったらちやうどうってつけですね。

山田：うん。

染谷：だから、あの、北海道はね、あの、東京港から前出てたからね、あの、苫小牧まで。

笹田：はいはい。

染谷：それで、あの、丘走つてく人も、うん、GL1800、ま、1500、クラブはね、それで、あの、ま、あの、どうしても、うん、5日から1週間かけて行くから、クラブ全員というわけにはいかない。じゃあ、あの、うーん、飛行機で来る人は、じゃあバイクうちのトレーラーにね、あの、全部乗っけて。

藤田：へー。

染谷：行って、向こうで下ろしてやって。

藤田：いいですね。

染谷：っていう、そういう、あの、回り方したりなんかもしてたの。

藤田：へー。僕は何回かあるんですけど、あの、名古屋から、あの、太平洋フェリーで。

染谷：あ、太平洋フェリーやね。

藤田：名古屋、仙台、苫小牧。

染谷：うん、そう、仙台経由で苫小牧入っていくものね。うん。

藤田：苫小牧入るんがありますね。えー。関西の人は日本海フェリーを使うんですけど、どうしても夕方に入りますから、あの辺り1泊どっちみちせんといかんのですよね。で、太平洋フェリーは少し時間かかりますけど、10時半か11時ごろ入りますんで、あの上のやっぱり納沙布ぐらいまでズバツと走れるんですよ。その日のうちに。だからあの船もきれいですよね。

染谷：あ、なるほど、あれはね。

藤田：ね、ドライバーさんも結構トラックも多いですし、大きい船ですけどね。うん。あれも僕ら乗るのは8月の20日すぎなんです。かなり4割ぐらいディスクカウントしますんで、シーズンオフで乗りやすいんで、乗ったという経緯はありますけどね。

染谷：そうだよ。あの、フェリー関係も今まではま、あー、8,000トンから1万トクラスだったけど、今はもう1万2,000、1万5,000トクラスだからね。

藤田：あー、そこまでですか。

山田：そうか。そんなでかいんだ。

藤田：フェリー移動もいいですよ、結構。

山田：うん。

藤田：結構揺れませんしね、今。

染谷：うん、そう。うん。

藤田：ね、すごい安定してますよね。

染谷：ま、中には韓国のフェリーみたいなものもあるけどね。あれだって、あの船っていうのは、俺ら、あの、東京港から沖縄、マルエーフェリーって、え、あの。

藤田：あのフェリーだった、もともとは。

染谷：うん、だったんだから。うん。あれを入れ換えたでしょう。で、向こうへ出して。

藤田：なんか改造してるとかいうことですか。

染谷：うん、向こうでなったからね。

山田：で、しかもね、バラスト水抜いて荷物積んでんねんもんね、人載せてんだもん。

藤田：それはもう、そらバランス悪いの当たり前ですよ。

山田：うん、うん。

笹田：なるほどな。

染谷：ま、それでバイクの人たちも長距離は結構夏休みは多いもんね。

藤田：うん。

山田：うん、そうですね。

藤田：そうですよね。だから、ま、あこも、ですから、あの、太平洋フェリーも 20 日すぎるとかなりディスカウントしますよね。

染谷：うん。

藤田：えー、客がいつぺんに減るんでしょうね、やっぱり。夏休みが終わりになりますとね。そうか。フェリーを使ういう手もあるんですね、やっぱり。どんどんね。

山田：うん。

藤田：うん。

染谷：ま、中にはバイク乗るのは、なんやフェリーで来て、バイクの、うーん、楽しさがねえじゃねえかっていうのもいる、若い連中はね。うん。

笹田：ま、でも、距離考えますとね。やはりせめて片道でも使うと随分違いますよね。

山田：うん。

藤田：最近こっから東京からでしたら、どこまで辺りが一番長く走れる、長距離ではバイクで行かれましたですか。

染谷：バイク、ま、ほとんどね、自分、乗用車乗らない、バイクで来てるから、ま、あの一、秋田辺りとか、あ一、山形、福島、その辺からね。関西方面はあんまり行かないね。そこ過ぎて、あとは、あの、四国。

藤田：はいはい、あ一、そうですか。

染谷：うーん、うん。

藤田：ふーん。秋田はあれですか。男鹿半島ですか。

染谷：いや、こっち、あの一、秋田の能代とかね、あの辺。

藤田：はいはい。

染谷：それから、あの、あそこちょうど秋田、能代にね、ロケットの、うん、研究所があんのよ。

山田：へー。

藤田：能代にですか。

染谷：能代。この発電所とね。あそこうちのお客さんで、ほら全部そういうの運んだりしてるとこだから。

山田：なるほどな。

藤田：そうですか。前、走りましたね。

山田：走りましたよ、はい。

染谷：今、もううちの発電、風力発電やなんかの大きいのはね。もう 100 トンクラスの、だけど、今、そういうのは、ほら、特殊な運転手、今事務所にいるやつ戻ってきたばっかしなんだわ。えー、山形かな。山形の港から下ろして、その近くへね。やって戻ってきて。

藤田：この上にようけ風車あったじゃないですか。風力発電。

山田：ある、ある。眺めたもん。

藤田：鳥海山の所にずっとありますよね。何基も。

染谷：うん、うん、そう。

藤田：あそこ多いですよね。見に行きましたね。

山田：はい。なぜかね。

藤田：ちょっとだけ道に迷ったんですけど。えらいロスしたんですけどね。

山田：ま、でもあんだけあの風車見られて、おーすごいなというのはありましたね。

藤田：ありましたね。だから、僕、案内して良かったでしょう。

山田：いやいや、そう。

染谷：うん。

藤田：東北もいいですよ。

染谷：あ、うん。道もだいぶ良くなったしね。

藤田：ええ。

山田：ええ、信号少ないしね。

染谷：うん。

藤田：で、今、先ほど言われた、生まれた、生まれられた、その利根川沿いからもうずっと上も歴史のある街道ですから、いいじゃないですかね。利根川って結構長いんですね。日本で 2 番目か 3 番目に長いんですよ。

染谷：そうだよ。うん。

笹田：うん。僕も知らなかったんですけどね。

山田：いや、長いんですよ、水上の方まで。

藤田：長いでしょうね。

山田：うん。

藤田：信濃川トップでしたね。

染谷：信濃川、利根川。

藤田：利根川、信濃川までどっか一緒に入ってるんですよ、あの、一緒になって、あの、信濃川っていうのは距離あるんですけどね。利根川結構長いんですね。

染谷：利根川は、まあ、新潟の奥只見か、ですから。

藤田：あ、相模湖の方から。

染谷：うん。から来てね。うん。渡良瀬。

藤田：あ一、相模湖の方からですか。長いですね。

染谷：そこから、あの、今度は江戸川と、うん、利根川分かれて。

藤田：あの、山形の小国で年に 1 回、あの、イベントがあるんですけど、そこは、まあ、僕ら参加してるんですけど、もう 14 年目になりましたけど、その村のいわゆる、あの、お年寄りがね、明るく日朝からもういわゆるそのパレード、一番メインストリートをもうパラパラしかおられないんですけど、こう、みんなこう手を振ってくれるんですよ。だからあれはすごくいいなと思ってね、お年寄りとの交流もね、やってるんですけどね。

山田：あの、小国は、あの、もともと小学校が廃校に

なって、で、そこを、あの、その教室に寝泊まりするんです。

染谷：うんうんうん。

山田：で、向かい側に、あの、ま、きちんとしたお風呂があって、校庭が結構大きいんで、その脇でバーベキューやったりして、すごい楽しいです。

藤田：100人ぐらい集まりますんでね。あの主催は、ま、僕の友人で、あの、埼玉のニサイタマキギョウニって、あの、大きいあのビルの杭を打ってる。あの、ま、仕事をされてる。丹さんっていう、そこのクラブが主体でやってるんですけど、だいたい100人ぐらい毎年集まってくるんですよ。今度ぜひそこで、あの、ちょっとトラックとの遭遇はこうやとか。

山田：具体的にね、やりましょう。

染谷：うん。

藤田：できたらいいですよ。

山田：うん。

藤田：純さんとちょっとコラボやったらどうですか。あこでね。

山田：はい、はい。ぜひぜひ。

藤田：本当にええ連中ばかりね、集まってきて。あの、1回、ぜひ今度1遍ください。いいと思いますよ。えー。今度はやっぱり利根川もやらなあかんですね。利根川ツアーを。

山田：うん、うんうんうん。

藤田：あとは、そのドライバーさんとの交流を持てるような場所って、他に何かここやったら結構みんなトラック集まるでっていうのはありますか、やっぱり。

染谷：うん、やっぱりね、うちだったら、あの、道の駅。

藤田：あ、道の駅ですね。

染谷：うん、道の駅、各とこにできてるからね。あとトラック協会の方で施設造った所で、ほら、あの、ああいう大きい車だから、うちなんか特にね、あの一、待機場所もないわけよ。

笹田：あ、そうか。だから道の駅でもある程度決められるわけですね。

染谷：うん、そうそう。

笹田：あの、入る場所、入れる場所が。

染谷：うん。で、荷物積んだらね、あの許可が21時から朝の6時までしか運行できない車が多いのよ。

笹田：あの幅で。

染谷：幅の関係で。だから電車運んだり、ああいうロケット関係とかね、うん、は。

藤田：あー、なるほど。そうですか。やっぱり先導車両があって。

染谷：うん。先導、後導、あと、かじ切りマンが、後

ろのもんがかじ切れないと曲がれないから。

山田：あ、そうか、そうか。

藤田：あの、僕、今やから言うんですけど、あの、自衛隊、最近よくね、今まで深夜しか動いてなかったんですけど、結構真っ昼間でも平気で今、自衛隊かなり移動しますよね。

染谷：えー。

山田：うん。

藤田：で、一番前の先導のあのジープにね、手挙げて、ま、せんよりましかなと思ってね、ご苦労さんという形で手を挙げてるんですけどね。うん。

染谷：あ、俺ちょっとトイレに行ってきます。

山田：止めた？ もう結構時間たってる。

藤田：何分。

笹田：えっと、一応12時ぐらいまでと思ってんですけど。

山田：もうあんまりないな。

笹田：30分ぐらいですか。

藤田：うん、どんな話とかこういう話が欲しいとか。

笹田：うん、だから昨日出たのは。あの一、ライダーとトラックのコミュニケーション、他にどんなのがあるかとか。

島田：要望とか、こちらからも、向こうからも、例えばそのすり抜けるときに、どちらか決めてくれという問題とか、あの、こちらから提案するとか、

山田：うん。だから、ま、トラック側から見たら、どういうふうにした、してもらったら安心なのかっていう。

藤田：どういうのが一番違和感あるか、ですよ。バイクに対して。

島田：そうですね。

染谷：あ、すいません。

笹田：いやいやいや、大丈夫です。

藤田：違和感あるかどうか聞いて、そこんとこ聞いたらええな。

笹田：じゃあ、染谷さん、あの、後半、第2部スタートですけど。

染谷：はい。

笹田：あの、えっとトラックの運転手さんから、このライダーの動きを見ておられて、あの、さっきすり抜けの話が出ましたよね。片一方の方向からだけにしてくれとか。あの一、そういうことも含めて、トラックの運転手さんからライダー見てて、こういうふうに住ってもらったら助かるとか、そういうのはありますでしょうかね。

染谷：うん。うん。あとは、ま、トラックの立場からするとね。あの、ああいう高速道路ばっかしじゃない、

うん。一般国道、県道、お一、あるいはね、あの、伊豆方面へ行きゃあ国道でも、ま、どこ行くにしても、うちはあの伊豆の、伊豆急の電車運んでんのよ。

山田：あー。

染谷：で、そうすると、あのコーナーをね、全部、ま、夜だけだからいいんだけど、下ろしたあと、あの、うーん、ああいうスカイラインやなんかあの辺とか、うー、走るとね、ま、バイクはあのコーナーを、ま、走るのが一番いいもんだから、それで普通の乗用車ではね、バイクが来てもサッと寄って、バイクもよける、乗用車も。トレーラーの立場からするとね、前が見えないわけよ。もうコーナー、だって何て言うの。

で、相手が1台ならいいけど、3台、5台もズラズラッとこう来る、ね。そうすると、ま、スピードも出て、こっちはあれだけ。あの連中、あんで1台こけたら、全部、20メーターもあんだから、前後ろ、その中で巻き込まれてたら大事故になっちゃうと。ああいう、うん、運転はちょっとね、レース場以外はやんねえでくれよというのが、あの、トラックの運転手の立場で。

山田：あんなもん絶対そうですよね。本当にひどい走り方してるのいますからね。

藤田：うん。

染谷：だから、それと直線でも、ま、抜くにしてもね。あの、乗用車がまあトレーラーなんて遅いから、トラックが。みんないらいらしてるわけで、抜きたくってね。

で、あの追い越し車線の黄色い車線側から、ま、あの、箱根新道でもそう。そこから今度は、追い越し車線が、あー、2車線になって、ま、左よける、そうするとバーッとみんな行くんだけどね。その中にまあ、中には、あの、遅いの、えー、右走ってるトラックがいんのよ。よけてやればいいのになと、俺らからすれば、後ろ続いてんだから、いっぱい。よけて、そうするとその間をこう乗用車が行く。その後バイクもこの際抜かないともう、うん、30キロ、40キロの速度でね。20キロも30キロも走らされたらたまったもんじゃねえって、え、バイクからすればね。あーもう早く抜いて行きたい。

そうすると、それとこんで、ま、1台、2台はいいんだけど、前が行っちゃうとやっぱし後ろもついてきたから、無理して走っちゃうんだよね。だからそういう車、あの、お一、何台来るか分かんないけど、あー、後から来るやつのは、あの、追い越してくるのは、なおさら危ないからね、気を付けるようにと。

それと対向車も前の車、全部行く。それ、ま、対向車だからいいけど、オーバーランしてこない限りはね。

そうすると、後ろの方ついてるやつの方がもうだんだんスピードがアップされて、追いつこう追いつこうと思ってるから、そうすると対向車にももうあんまり注意しないで走っちゃう。逆に、俺らがバイク乗るとそういうふうになっちゃうんだけどね。うん。トラックからすると、そういうもんで。

藤田：結構後ろ、一番しんがりを取るっちゅうのは難しいんですけどね。スピードがやっぱり先頭と10キロ近く違いますから、平均速度が。だからやっぱり焦るんでしょうね。

染谷：それで。

藤田：特に大きいね、前に遅いのがあると、もうその、その時点で抜かないと。

染谷：ある程度ね。だから、そういう、ま、あの、うん、先頭車両の方へ入る、うん、うん、バイクはね、うん、それでいいんだけど、後ろの方であんまり、あの、技術のって言っちゃあれだけど、うーん。

藤田：ないのがつく。

染谷：うん、と、うん、追いつこうっていう無理な運転になっちゃうからね。

藤田：そうですね。うん。

山田：だから、グループで走る場合は、その経験があんまりない人を前の方にした方がいいですね。

染谷：うん、そう、そうだよ。

山田：うん。だからそういうのも含めて、何かこういうふうにした方がいいですよみたいな提案を僕らがどんどんしてった方がいいと思うんですよね。

藤田：そうですね。

山田：今日お話ししたような形で、染谷さんからこういうトラックから見てこうなんだよっていうのを教えていただいたんで、じゃあその辺のことに僕らも対応していかなきゃいけないですからね。

藤田：ま、一番トラックも乗っておられるし。

笹田：そうですね。

山田：バイクも。

藤田：バイクも。

笹田：両方の経験がおありだから。

藤田：どうですか。僕ら、ま、トラックのドライバーさんと、もっともっとう交流を深めていこうっていう、ま、これからもやっていきたいんですけど、やっぱりどうですか。僕ら自信持ってやってきたんですけど、迷惑がられるようなことはないですかね。

染谷：うん。それは、ま、ないと思うけど。

藤田：ま、押しつけのようなね、ことは、ま、言いませんしね。ま、軽く会釈してあいさつして、えー、だけですけどもね。

山田：ま、基本、安全にその結び付くような、あの、

ことをやってきたいなと思ってるんで、その辺でぜひ、あの、ご賛同いただければ、あの、僕らもすごくありがたいし。

藤田：そうですね。

山田：うん。だから染谷さんところのドライバーさんに、あのー、そういった方、ま、染谷さんのトラック見たら、手を挙げるよって、手を挙げたらもう1回鳴らしてあげようっていうので、言っといっていたけると。

藤田：こういうバイク乗りもおるよっていうことで、仲間入ってもらおう。

笹田：そうですね。もうぜひRMCに入会していただきたい。

藤田：はい。あれは社長の車やな。やべえなとか。

染谷：いや、うん、たまにね、ま、うちのドライバー、俺がバイク乗って後ろついてるとね。

藤田：あ、そういうときあるんですか。

染谷：うん。けどね、うちの連中はだいたいもう、あ、付かれたなって分かるっていう、それとほら、無線持ってるからね。

山田：はいはいはいはい。

染谷：おい、おやじ、あそこ走ってるから、お前らみんな気を付けろよ。

藤田：情報行き渡るわけですか。怖いですね。

染谷：それで、俺のとほら、業務用の無線じゃ周波数が違うからね。俺には全然聞こえないわけよ。

藤田：ドライバー同士は分かる。

染谷：うん。それでっつって。その前にもう、おー、付かれたの分かるやつなんかね。あの、ちゃんとしてやる、あの、ハザードたいてね、合図して、付いてんの分かってるよっつって、ハザード使って。あ、たかれちゃうからね。

藤田：また1台、買わんといかんですね。

染谷：え？

藤田：みんなの知らんバイクを1台買わんと。おとなしいやつを。でも、逆にね、僕らの知らない道をね、ご存じだったら、ちょうどこの笹田氏が関東の一応を、ま、あれですんで、一応トップですんで、一応いろいろまた。

笹田：そうですね。ぜひ、あの。

山田：一緒にね。

笹田：一緒に、来年いろいろ走りをご一緒しましょう。

染谷：うん、うん。もし、ま、走んのもね、えー、あれだったら。

笹田：えー、楽しみですね。

藤田：あ、いいっすね。ライダートレーニングの中でトラック入れるとかいう。

山田：いやいや、僕が言ってるのは、あのー、トラックのドライバーから見て、バイクがどう見えてるかをみんなに教えたいんですよ。だから僕らから見ると、こう高いところにドライバーさんいるわけじゃないですか。逆にトラックのドライバーから見ると、バイク下の方にこういるわけで、それがどういうふうに見えてるか。

藤田：意外とあの大きい10トクラスの運転席に座った経験って意外とみんなないんですよ。

山田：いや、ないですね。

藤田：で。あれだけかきミラーであれだけ長いかなってというのは、やっぱり体感するじゃないですか。結構、上に乗ってしまいますと。うちの息子もトラック乗ってるんですよ、あの、大きいのをね。ほんで乗って帰ったとき、ちょっと乗せてもらったりするんですけど、トラック協会の去年のイベントであったのかな。

島田：運転席座らしてもらったんや。

藤田：あの、そういう運転席座ってくださいというコーナーがありましてね。やっぱり僕らバイクから見る目線とはちごうて、やっぱり先ほど言われた死角が結構ありますよね。

染谷：えー、そうそう。うん。

藤田：特にトレーラーなんかまだ長いわけですから。

染谷：うん、そうそう。

藤田：後ろからつないでるところの尻が、どっちいっとなるんかって言われると、なかなか分かりにくいでしょうね。あんなん小さいワゴンなんかドーンと踏んでもあまりこう反動がないんかも分かんですね。

染谷：いや、ところがね、トレーラーの運転手はね、あの、そういう、ま、あの、石、ちっちゃい石踏んだってね。

藤田：一番リアの。

染谷：あの、分かる。

藤田：分かりますか。

染谷：うん。で、ゆっくりしててね、あの、ちょっとした、あのー、物を踏んでもね。あ、なんか踏んだな。

藤田：あ、そうですね。

染谷：ブレーキ、それつくから、そういうときは。

藤田：あ、そうですね。

染谷：うん。バックしてオーライしても、あの、前行くにしてもね。見てるとよく分かんのがね、それたまに、あの、この縁石との間ね。であったり、夜なんかの見えないときもある、たまに俺いたずらでね、あの、ストッパー、あれじゃあ大き過ぎちゃうから、ちょっとした、あの、角材、「オーライ、オーライ」って言って、それ乗り上げた途端にブレーキがつくのよ。

藤田：へー、結構意地悪いですね。それテストで、テストで。

山田：逆にそれぐらいそのトラックドライバーさんって、あの、敏感で神経配って走ってる。

藤田：分かるんですね。分かりますか、一番後ろでも。

染谷：そういうのもいるし。それと、うん、そういうの気が付かないでズラッと行っちゃうやつもいるし。うん。

藤田：すごいね。そやけど。当然ブレーキもすごくいいんでしょう。まあ、ABS 付いてるんですよ。

染谷：あ、そう。うん。

藤田：すごいな。でもリミッター90とは初めて聞きましたね。90キロでリミッターが付いてるなんてね。

染谷：で、今、あの、電車運ぶ車なんていうのは、あ、最高速度60キロしか出ないのよ。

藤田：あつ、そうなんですか。

染谷：うん。

藤田：特別車両なんですか。

染谷：うん。あそこにある100トンクラス引っぱるやつなんていうのは、あれ夜しか走れないからね。あと向こうにベンツの特殊な車と。

藤田：あー、そうですか。そういう車両って国内ではほとんど少ないんでしょうね。持ってるどころ。

染谷：うん、あんまりないけどね。

島田：あの、私が後ろトレーラーで、後ろがタイヤが5列並んどって、ハンドル切れるっっちゃうのでビックリしたんですよ。

藤田：あー、後ろも切れて。

島田：あの、後ろもリアもハンドルが切れるっていうんで、小回りできるようになってる。

染谷：うん、そう。うん。それうちには何台もある。

島田：あー、そう。あー、そうですか。じゃあ大きい車両でないと当然。

染谷：だから向こうにあるけどね。それ。

藤田：ありましたね。1回南港でね。こう回ってきたときに、あ、こんなももう1回切り直しするかなって。

島田：そうそうそう<聞き取り不能>が。

藤田：曲がりきってしまう。

染谷：あー、南港辺りだと、あの、近畿興運さんが持ってるよ。

藤田：で、後ろがこうずーっとこっちは来んですよ。

染谷：そうそう。

藤田：あれすごいなと思ってね。

染谷：うん。うち5軸、6軸、8軸。

藤田：あれ全部こうね。

染谷：うん、全部かじ、自動かじ切りと、それとあの一、無線でかじ切りと両方。

島田：そうですか。

藤田：切り返さないんですよ、あの急角度がね。

島田：どうして曲がるかなって、ちゃんとあの、何て言うんですかね、切れ角が後ろに行くほど切れ角、大きくなっていくように。

藤田：1発で回り込むんですよ。

山田：すごいね。

染谷：そう。

笹田：それ日本のトラックですか。外国のものもあるんですか。

染谷：え。うん、外国製のやつ。うん。

藤田：すごいですよ。ま、でも、さっきこんなにしても分かるっていうのは、結構だから敏感なんでね。うん。逆に、バイクはちょっと触れたらって、ハンドルがポンと触れたらもう分かるわけですよ。

染谷：うん。もうバイクだってね、あの、そういう障害物、あるいは、あの、よく轍があるじゃない、トラックの。あそこやって、あの、またぐと思って走ると、ちょっと嫌だと、轍でグワツとくる。うん。あれは、あの、そういうバイク乗ってる人でもね。あの、少ししかない、あの、おー、白線のラインが縦にあって、そこ雨の日なんかは、よくちょっと滑るみたいな感じで気を付けてると、あの、とこと、でこぼこところ乗り上げたのが、分かる人と分かんない人がいるよね。

山田：はいはいはいはい、そうですね。

染谷：その違いだけ。

山田：だからペイントのその角をこうね。

島田：あー、はいはい。

山田：またいだりしたときにね。あー、今これ、ペイントの上から降りたなとかね、分かる人と分からない人がいるって同じだよ。

島田：何ミリですもんね。ペイントの厚さで。

山田：うん、うん。

藤田：結構、結構神経細やかなドライバーさんが結構おられるっちゃうんでね、やっぱり。

染谷：だからね、やっぱあの、うちの6軸なんていうのは、タイヤだって、えー、30本も付いてんだから。その中でね、どれがパンクしたか、どの辺かな、うん、あの、空気の甘いのもだいたい分かって降りて全部点検で。

藤田：そうですね。もっとうち大ざっぱなんかと思ったんですけど。

山田：逆に。

藤田：逆ですね。

山田：うん。

藤田：だから余計こうちょっと抜くときに手挙げたら分かってくれるか、うれしいですよ。

山田：うん。
藤田：うん、うん。それをちょっとどんどん広めていこうと思ってますんで。えー、また現場の方で。
山田：そうですね。ぜひよろしくお願ひしたいと。
藤田：コマーシャルしていただいて。
染谷：あー、いえいえ。
島田：じゃあ。
山田：そうですね。
藤田：何か他にないですか。こっちの方、島田くんの方から何か。
島田：はいはい。いやいや、もうありがとうございます。あの、ちょっとこれ紙に書くなり、もしくは、ちょっとこれをホームページなり、あの、ちょっとYouTube でですね、上げるような格好にしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。
染谷：はい。
島田：で、できることなら、これトラック協会の方に、あの、こういう格好で染谷さんのとこと対談させていただきましたので、報告しましょう。
染谷：トラック協会の方でも、うん、ま、本部の方へ行けばね、あの重量部会委員のやってる染谷って言えば向こうも分かってると思うよ。
島田：あの、そういう格好でちょっとすいませんけど、あの、お名前出させていただけますんで、すいませんけど、よろしくお願ひします。
染谷：うん、はい
藤田：ま、今度、お礼に行ったときにね。
島田：そうそうそう。
笹田：はい、えー。
島田：長々時間ありがとうございました。
染谷：いえいえいえ。
藤田：今度。
山田：一応、あの、染谷さんところのトラックのカラーリングとか写真を撮って。
島田：はい、はい、それ撮らせてください。
笹田：やりましょう。
山田：で、僕らのクラブの会員の人たちが、え、このトラック見たとき、みんな手挙げなさいというので。
藤田：あー、いいですね。今度それを増やしていったらいいですね。
山田：そうそうそう。
藤田：ホームページに、あの、トラックの色を。
島田：そうですね。あの。
山田：うん、形とかね。
藤田：あの、コーナー1つちょっとリンクを設けて。
笹田：そうですね。やりましょう。
藤田：おー、協賛トラック各社ってということで。みな

手挙げよるで。
島田：それは絶対早いんですね、その方がみんな覚えよるから。
笹田：いや、ひとつこのトラック見たら手挙げよう運動。
染谷：トレーラーでね、なかなかあの、あの、優良事業の、あの、Gマークなかなかもらえないのよ。
笹田：あー、そうですね。
山田：あ、そうですね。
笹田：染谷さんとこコンピュータあります？
藤田：パソコン？
笹田：この事務所で。
染谷：えー。
笹田：そこでちょっとホームページ出しときましようか。われわれの。あの、クラブの。ホームページあるんです、すでに。
染谷：うん。
笹田：それもう、あのー、検索されるのも面倒くさいだろうから。今こうやってやらしてもらえれば出しときますけど、画面を。
藤田：染谷さん。
染谷：どうなのかな、俺。
笹田：あの、工作中だったら悪いけど、もし使っていないのがあれば画面を出しときますよ。
藤田：まあ、聞いてね。
笹田：うん。
藤田：またうちの息子がトラック、あの、食いつぱぐれたら使うたってください。
染谷：いやいやいや。
藤田：あの、西日本のトラック協会のあのドライバーコンテストで、3年前やったかな、2位に入りよったんですよ。
染谷：あ、そうなんですか。
藤田：ドラコンで。
山田：あ、すごいじゃん。
藤田：ほんで「お父さん、俺ドラコンで2位、2位やったんや、くそ」とか言うて、「お前いつからゴルフやるようになったんや」とか、「いや、ドライバーコンテスト」。「2位ってお前1位取らなあかんやん」言うたらね、1位はほとんど取れないって。日通さんが専用のドライバーで仕事せんで、その練習ばっかしとる。
笹田：あー、それはなるほど。
藤田：日通は絶対1位でないとか駄目やと。2位に入りよったんです。
山田：それはすごいじゃん。
藤田：で、あの、教習所の10トンで、あの、ポール横7センチ、後ろも7センチぐらいで止めて、すごい

な。

山田：へー、それすごいな。

藤田：うん。後で褒めましたけどね。全然分からんから、何やっとなか分からんから。

バス乗る言うもったんですけど、やっぱり人間載せんの嫌や言うて、うるさいから。トラック好きで、あの、今、あの、20トンぐらいの、なんかありますよね、長い、あれを。

山田：あの、車庫のところの、今、トラックヘッドあるじゃないですか。

染谷：ええ。

山田：あれの後ろにこうトレーラーこうつなげたやつ写真とかってあります？

染谷：うん、それはある。今あれかな。うん。

藤田：すごい排気量だよな、これ。何万。

山田：えー、10、10何リットルやなかったっけ。

藤田：うちの息子がトラックに憧れんのも分かるな。

1回乗ってみたいもんな。ボルボよりちょっと高い言うもったかな。

山田：へー。

藤田：あ、そうか、こんな乗ってんな。ええ人ですね。すごくてね。ササヤン。

笹田：はい。はい。

藤田：染谷さん、ええ人やね。

笹田：朴訥でね。

藤田：ね。

笹田：最初ちょっととつつき悪いんですけど。

藤田：でも、最近やな、最近？

笹田：うん、いや、もう7~8年の付き合いです。

藤田：そうですか。

笹田：はいはい。ただね、ここのところちょっとお会いしてなかったんで、僕アイアンホースへは、ほとんど行ってないんですよ、最近。

藤田：言っていましたね。

笹田：それでだから全くお目にかかってなくて、ちょっと連絡取ってなかったもんですから。

藤田：今度はうまく勧誘せんといかんですね。そのクラブに今度、何人か。

山田：もうだからこういう形で染谷さんの方の染谷運輸は、こういう賛同していただきましたと。賛同してくれるドライバーさん、個人でも構わないからどんどん応募してくださいってすれば。

笹田：いいですね。

山田：その人の持ってるトラックの写真とそれがあれば。

笹田：これでいいんですか。

藤田：えー、ありますね。

笹田：これでいいんですか。

藤田：だからステッカー貼っていくんじゃないで。それをホームページ上げていけば、今度バイクのね、ドライバーが今度意識しよるわけやん。

山田：そうです。そう。

島田：だから自分のところへステッカー持ってきた。これ自分持って帰ったって。

笹田：あ、別の人に上げるってことね。

島田：はい。

笹田：これ染谷さん1発ぐらいあげとく。

藤田：うん、そないしときましよう。

笹田：ね、これも運転手さんもね、貼ってくれば。あとライダーがこの会社にどのぐらいいるか、ちょっと聞いてみますかね。こちらの会社も。

藤田：そうですね。

山田：あ。

藤田：何。

笹田：そしたら、もう今日入ってもらえたら会費ももらっちゃいますか。今度いつになるか分かんないから。

藤田：ま、その会費は島田とササヤンがよしとって。

島田：いえいえ。純さん、でもぶんどったということ。

藤田：ま、しかし、こうやってちょっと全く昨日まで知らなかった人と話できて。

笹田：そうですね。うん。

藤田：バイクを通じてのね。

笹田：ほんと、ほんと。

藤田：仲間うちゅうのはほんま楽しいですよ。

笹田：うん。全くですよ。

藤田：だって僕なんかトラック乗れんし、そやけどバイクは乗れるし。

笹田：でも、本当に。あ、どうぞ。

島田：トラック協会のとこにまずごあいさつに行かれるときに、ここの染谷さんのことを当然それは知ってはるみたいと思うんでね。

山田：いや、そらもう知ってるよ。

島田：そらここまでの荷物を扱うてはるから、トラック業界でもかなり。

藤田：だからトラック協会の人やから、対談ね、使ったいう言い方したらすごいい。

笹田：トラック協会の何て、ちょっと聞き取れなかったです。何かをしてるって言っていました。何だ。

山田：うんうんうん、えっとね、何つたっけ。

笹田：何か聞き取れなかった。

山田：名前。名前。

島田：もう1回それ確認だけ。

笹田：もう1回ちょっと、あの名刺まだ私には渡して

もらってないんですけど、それに書いてないですか。

島田：えーと。

笹田：名刺には。

藤田：裏に載ってないか。

島田：載ってない。

笹田：あー、ないですね。これは。

藤田：たぶんトラック協会行ったかて。

笹田：うんうん、聞いてみましょうね。

藤田：染谷さんこんだけのね、電車運んだりなんかしてるとこね、絶対みんな知ってると思いますわ、俺。

うわ（註：染谷運輸のトラックの写真を見て驚く）



笹田：うわ、すごい。

染谷：そら、最近のやったやつぐらいかな。

藤田：うわ、それもあるんですか。こんな重機も、あるんや。

染谷：うん。こういうやつとかね。

島田：ちょっと撮らせてください、じゃあ。すごいな。

笹田：うわ、すごいね。

藤田：日本にこんなあるんですか。こんな重機使って。

染谷：1,200 トンの、うーん、運んだ、こういうのとか、うちの5軸、6軸。

藤田：うわ。すごえな、これ。これ後ろだけ。

山田：うわ。

染谷：こういう。

笹田：すごい、戦車があった。

染谷：電車とか。

笹田：ちょっとお手洗い借ります。染谷さん、お手洗い借ります。

染谷：あー、はい。

藤田：これって別注ですか。ほとんど別注。

染谷：そうそうそう。

藤田：オーダーするんですね。

染谷：うん。

島田：すごい。

藤田：えー。

染谷：うちの工場でこれ全部ばらして、こうやって点検して。

笹田：染谷さん、手洗いはどこになるんですか。外。

染谷：あ、外。おお、あの、うん、さっき。

笹田：え。あのドアの向こう。

染谷：うん、ドアの向こう側です。

笹田：そうですか。はい。

藤田：これ。これ。

山田：はい、巨大です。

藤田：こんな現物見たことないよな。

島田：はい。

染谷：あの、三陸鉄道、これ、あのほら。

藤田：はいはいはい、東北の。

染谷：あの、開通まで全部うちで運んだ。

山田：そうなんですか。すごえー。

染谷：うん、あれ YouTube やなんか載ってるよ、うちの。

山田：え、本当に。

染谷：うん。

藤田：ああ、まさしくこれですね。

山田：あー、そうやね。

藤田：第三セクターで走ったん。

山田：うん。

藤田：へー。

染谷：こういうものとかね。

藤田：あー。へー。いや、染谷さんすごいですね。

染谷：こういう自衛隊の演習のときは一緒についてって全部運んだり。

山田：えー、すごいな。

藤田：これだけの相手さんのものを、荷物を預かっておられたら、やっぱり変な、例えば違反とか変なことできないですね。絶対。

染谷：本当に。

藤田：看板しょってるから、だからドライバーさんもやっぱりだいたい教育うるさせんとあかんですね。こんな載せてスピード出せんやろうけどね。三陸鉄道。

島田：おっしゃるように夜のうちに走るっていうのは分かりますよね。

山田：うん。

藤田：これはすごいな、これは感動しますね、これ。

島田：えー。わー、ほんとだ。

藤田：テレビでしか見たことない車両、運んでおられる、すごいな。

染谷：あとね。

藤田：すごいわ。

島田：基本的にはコンテナじゃなくてトレーラーが、トレーラーヘッドっていうか、この、ですから、後ろは何引っぱるか分かんないですよ。荷主さんによって変わるんで。

笹田：あー、それは車両引っぱって。

島田：うん。車両引っぱって。そう。

山田：三陸鉄道、東北の震災の後。

笹田：へー、すげえな。

染谷：あとね。地方新聞なんかだと、全部こうやってうちの車、電車運んでるのこうやって掲載されてる。

山田：ああ、出てるんだ。

笹田：これがそのあれかな。

島田：ヘッドね。

笹田：ね、同じ。あ、違うか。違う。

山田：えー。

染谷：うん、そこへ、あの、きれいにしてね。

山田：なんだ、はいはいはいはいはい。ふーん。

島田：ちょっと純さん、よけとって。え、え、それでいい、それでいい。光らなかったですね。すいません。

山田：光ってない。

藤田：いけるやろう。

山田：うん。いける、いける。

島田：あれ、なんで光らないんだ、オートにしてんのに。

山田：別に光らなくても。

笹田：うん、撮れてんだよ。

島田：撮れてる、撮れてる。はい。あ、撮れてますね。はい。

笹田：かえって光らない方がきれいに撮れる。

島田：はい。

山田：うん。

藤田：いやいや、ビックリした。

笹田：これはすごいですよね。ほんま大きい。

藤田：はい。

笹田：うん。

藤田：今、光った？

島田：うん、光よった。この光の当てるその場所によって。

笹田：CB1300があった。

島田：はい、すいませんです。はい。

笹田：染谷さん、CB1300も、あれ染谷さんですか。

染谷：あ、あれは、あの、うちの、うーん。

笹田：息子さん？

染谷：うん、息子が乗ってるやつ。

笹田：あー、そうなんですか。ところで、染谷さん、トラック協会の何の委員やっておられるんですしたっけ。

染谷：あの、重量部会の。トラック協会と、その委

員やってる。

藤田：はーはーはー。

笹田：はーは。これ何委員ですか。

染谷：うん、あの重量部会委員つってね。いろいろ、あの、重量に、その、おー、許可とかね、そういうのを見て。

藤田：この前、広報のあれはなんちゅう人やった。

笹田：カネコさんという、あの、新宿のあそこに行ってきたんですよ。

藤田：広報の、広報部の。

笹田：あの立派なビルの、何階の、47階だったっけ。

染谷：あー、新しい方ね。

笹田：はい。そして、カネコさんっていう方が広報担当の人でした。これからますます関係深めていきましょう。

了